

2024 年度 研究サマリー

研究会名称	東京腎臓病対策研究会	
代表者所属	東京女子医科大学	
代表者氏名	星野 純一	
研究方法・結果 本年は、昨年度に新たに構築した多施設研究基盤を整備・維持し、発展させることを目的に活動を行った。 昨年立ち上げた多施設合同の web 病理検討会は、毎回 10 施設以上から 40 名以上の参加者がある検討会に成長しており、本年も継続的に開催した。 また、定期研究報告会の開催とともに新たな計画として、招待講師を招いた講演会を企画し、今後の具体的な研究計画立案に有益な知識の研鑽を行った。 本年度は、多発性嚢胞腎コホートをを用いて脳動脈瘤の早期発症に関連する因子の検討を行い、学会発表および論文発表を行った。 ADPKD 患者 519 名を対象に脳動脈瘤を有する患者の臨床的特徴を検討したところ、50 歳未満では CKD stage G4-5, 脳動脈瘤家族歴が主要なリスク因子であった。一方で、50 歳以上では、これらの因子に加えて、女性と高血圧が有意な因子であった。今回の検討により、性別や年齢などの属性に基づいた分析の重要性が明らかになるとともに、特に女性は閉経年齢などの影響を考慮する必要があることが示唆された。 本研究はアメリカ腎臓学会で発表するとともに Journal of Nephrology 誌に報告した。また、多発性嚢胞腎協会にて YIA 賞を受賞した。		
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等） 1. Ushio Y, Kataoka H, Akagawa H, Sato M, Manabe S, Kawachi K, Makabe S, Akihisa T, Seki M, Teraoka A, Iwasa N, Yoshida R, Tsuchiya K, Nitta K, Hoshino J, Mochizuki T. Factors associated with early-onset intracranial aneurysms in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease. J Nephrol. 2024 May;37(4):983-992. doi: 10.1007/s40620-023-01866-8.PMID: 38315279		